

ランキングに名前が載るといふこと

宮 沢 謙 市

今はランキングばやりで、何でも比較して順番を付けたがるようである。これに対する批判の声が強い。しかし、努力の結果が示されたランキングに載る名前を見ているといろいろなことを考えさせられることも多い。

先日、日本スケート連盟の公式記録サイトの歴代百傑の存在を教えられてちよつと眺めてみた。加藤条治、長島圭一郎、岡崎朋美、田畑真紀、スケートに興味のない人もどこかで聞いたことのある名前ではないだろうか。当然、高校総体女子三千メートル二連覇の帝京第三高校松岡芙蓉さん、全国中学校総合体育大会で優勝した三輪準也君、高山梨沙さんらの名前も載せられている。

その中に皆さんの先輩の名前を見つけ、しばらく見入ってしまった。小学校・中学校の県選手権の優勝者の中に名前があったわけではない。全国高校総体で活躍し、新聞に大きく取り上げられたわけでもない。しかし、ここに名前があった。

思い起こせば彼の高校生時代、雪の中を自転車車で登校するのを車で追い越しながら、何度「頑張れ。」とつぶやいたことか。簡単に言ってしまうとはいけないがあえて言わせてもらおうと、その強い精神力による精進と、大学に入ってから続けた努力が彼の名前を百傑に刻ませたのだ。(付け加えれば、先ほどの松岡さん姉妹や、北杜高校で今年も活躍した進藤佑紀君も自転車車で通学しているのを見かけたことがある。)

ところで、歴代百傑の表の中にはタイム、氏名、所属、期日、大会名等のほかに「場所」も載せられている。記録上位の場所にはカールギーやエムウエーブなどカタカナ名がたくさん並んでいるが、すべての表を通じて一つだけ「いこいの村」というのがある。「いこいの村」

は「ホテル風か」のかつての呼び名であり、これこそが現在のハヶ岳スケートセンターのリンクのことである。

全校生徒で滑ったあのリンクも一緒に百傑に名前を残している。これも、記録を出した選手は当然のこと、小淵沢に施設を作ってくれた先輩方や、すばらしい氷を作り、管理してくださった方たちのおかげである。しかし、現在九十四位、風前の灯となってしまっている。

山梨県内の中学校のスケート部員は本当にわずかになってしまった。今後何人の生徒がスケート靴を履き続けるかも分からない。スケートリンクの存続が話題に上ることさえある。しかし、記録が更新されれば名前が残る。スケート靴を履き続ける人がいる。一旦脱いても指導者としてまたリンクに立つ人がいる。それを支える地域がある。そんな中で、本校の在校生や卒業生の名前そしてリンクの名前が新たに書き加えられる日が来ることを期待したい。

今年本校では三人のスケート部員が卒業する。全国ランキングに名前が載る生徒は一人もいない。けれども、三年間やり遂げたことにぜひ自信を持ってほしい。なぜならば、前に挙げた人たちには及びもないが、スケートを続けるためには全員が間違いなく努力を絶やさなかったはずだからである。

このことはスケートに限らない。卒業生の皆さんは、これまでそれぞれが何らかの目標を持って進んできたはずである。今後も途中で投げ出さずに、納得がいくまでその目標の達成に向けて努力を続けてほしい。

比べられないものや比べてはいけないものを比べて安易にランキングを楽しんではならない。ランキング入りを目指して励み続け、その中からさまざまなことを学ぶことこそがなされなければならぬ。ランキングは結果として目の前に現れるものである。もしかしたらいくら努力しても百一番で、ランキングに名前が残らないかもしれない。けれども、やるべきことをすべてやったのであれば、自身自身の中では間違いなく一番である。自信を持って胸を張ればいい。